

自閉症児における教示要求行動の課題般化に関する要因の検討

Examination of factors for generalization of demand for instruction in children with autism

○山本 真也 (兵庫教育大学大学院学校教育研究科)
YAMAMOTO Shinya, ISAWA Shinzo
(Hyogo University of Teacher Education)
keywords: generalization, demand for instruction, autism

I. 目的

本研究は、教示要求行動の形成訓練において、それぞれの課題に含まれる要因を特定し、訓練課題から非訓練課題への課題般化において、それらの要因(弁別刺激と反応型)がどのように機能するか分析し、教示要求行動の形成における般化要因を検討する。

II. 方法

1. 参加者、セッティング

A 大学相談施設に所属する自閉症男児1名が本研究に参加した。本研究の開始当初、対象児の年齢は7歳だった。また、対象児が5歳3カ月時に受けた新版K式発達検査2001の結果より、対象児の発達年齢は1歳9カ月であった。セッションを原則2週間に1回行った。

2. 手続き

写真カードトレーニング 対象児の教示要求行動を形成するために、対象児に写真カード命名課題を行った。トレーナーは写真カードを対象児に提示し、その名称を答えるよう求めた。予め査定した未知刺激を提示した時、トレーナーが「おしえて」と言語モデルを示した。言語モデルは、0秒から5秒の幅で時間遅延法を用いて示した。

他型プロブ1 教示要求行動がどの課題に般化したか確認した。このフェイズで用いられた課題は、三項随伴性の枠組みから4つの型に分類した。Fig.1に4つの型の模式図を示した。それぞれの課題は、A型は「カードに描かれた形の名称を答える形カード命名課題」「カードに描かれた絵の名称を答える絵カード命名課題」、B型は「カードを特定の基準で分ける分類課題」「カードに描かれた数列の中の空白に数字をはめ込む数穴埋め課題」、C型は「箱の中に手を入れ、中に入っている物品を答える触覚による物当て課題」「提示された実物の名称を答える実物命名課題」、D型は「机に並べられた物品の内、指示されたものを取る御用課題」「指示された数字(「126」や「28」など)通りに数字を並べる数字づくり課題」だった。

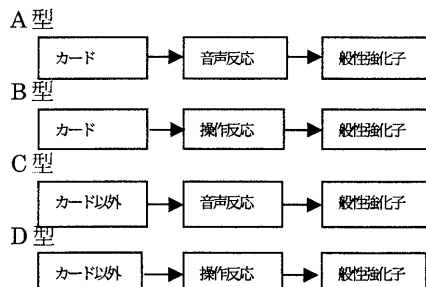


Fig.1 各課題の型の模式図

写真カードプロブ 写真カードトレーニングで使用されたカード以外のカードに教示要求行動が般化したか確認した。そのため、写真カードは、写真カードトレーニングで用いたカードとは異なるカードを用いた。手続きは写真カードトレーニングと同じであった。ただし、プロンプトは一切与えられなかった。

絵カードトレーニング 絵カードのもとで教示要求行動を形成した。マテリアルに絵カードを用いたこと以外は、手続きは写真カードトレーニングと同じだった。

A型随伴性プロブ 教示要求行動が形カードに般化したか確認する目的で行った。マテリアルに形カードを用いたこと以外は、手続きは写真カードプロブと同じだった。

他型プロブ2 教示要求行動がどの課題に般化したか確認した。課題のうち、御用課題、触覚による物当て課題、実物命名課題の3種類を行った。

III. 結果

他型プロブ、写真カードプロブ、A型随伴性プロブ、他型プロブ2の結果をFig.2に示した。

写真カードトレーニングにおける教示要求行動は15セッションで形成された。その後に行った他型プロブでは、絵カード命名課題と触覚による物当て課題で少しの般化が見られたものの、その他の課題には全く般化を示さなかった。また、写真カードプロブでは般化を示した。絵カードトレーニングにおいて絵カードのもとで教示要求行動を自発できるようになった後に行ったA型随伴性プロブでは100%の正反応率を示した。また、他型プロブ2においては、御用課題は0%、触覚による物当て課題は80%、実物命名課題は100%の正反応率を示した。すなわち、C型随伴性の課題には般化したが、D型随伴性の課題には般化しなかった。

IV. 考察

写真カードトレーニングという単一の課題においてのみでしか教示要求行動が形成されなかった場合、他の課題において教示要求行動は般化しなかった。しかし、絵カードトレーニングを達成すると、より多くの課題に般化した。これは、本研究の対象児にとって複数、少なくとも二つ以上の課題において教示要求行動を形成することが般化を促すといえる。また、C型随伴性の課題には般化し、D型随伴性の課題には般化しなかったという他型プロブ2の結果から、般化には弁別刺激だけではなく、反応型が大きな影響を与えている可能性が示唆された。

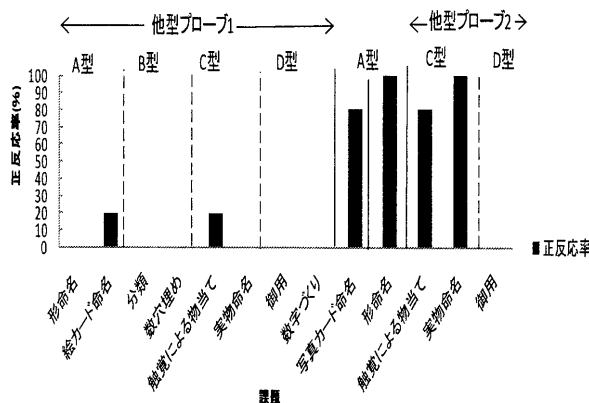


Fig.2 プロブの正反応率